

発行にあたり

この度、静岡県長寿命化計画の推進にあたり、建設部内での取り組みについての情報を共有するため、この情報紙を発行することとなりました。長寿命化計画に対する各工種での取り組みや進捗など参考にして、今後の業務に活かしてください。この紙面内で訂正等がある場合は、連絡をお願いいたします。また、ご意見・ご要望も受け付けております。

県管理施設と長寿命化対象施設
(H20.4時点)

施設	単位	県管理	対象
舗装	km	2,661	2,661
橋梁	橋	3,158	3,158
トンネル	トンネル	146	146
水門・陸閘	箇所	212	212
係留施設	km	33	33
斜面施設	道路擁壁	km	—
	急傾斜法面	千㎡	33
ダム	箇所	2	2
管路	km	128	128

※舗装⇒未舗装延長を除く。トンネル⇒県境トンネルを除く。急傾斜法面⇒長大法面のみ対象。管路⇒流域幹線のみを対象。

発行・編集

静岡県建設技術監理センター

〒421-0122

静岡市駿河区用宗1丁目10-1

TEL 054-268-5004

FAX 054-258-6030



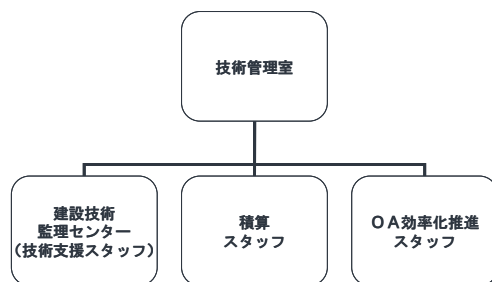
一般県道富士由比線 富士川橋 : 大正13年(1924年)

土木施設長寿命化情報紙を発行します

建設技術監理センターが発足

平成19年度まで長寿命化計画の担当であった建設部企画監(企画・広報担当)に替わり、建設技術監理センターが業務の取りまとめを行うこととなりました。平成20年度に発足した新しい組織で、静岡市駿河区用宗に事務所があります。技術管理室に在席していないため、情報の伝達やコミュニケーションなどが難しく、県庁内各工種担当の皆様へは御迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、よろしくをお願いいたします。

また、この紙面では、県内の技術職員が長寿命化の取組状況などの情報を共有できるよう、出先事務所、市町関係各位への配布を目指しています。



技術管理室の組織図

情報の共有を目指して

今後、当センターでは建設部内の長寿命化計画に取り組んでいる8工種について、過去の経緯や現時点での進捗状況、国や他県の動向など、長寿命化計画に関する情報を、この紙面を通じて技術職員の皆様が共有し、いま、建設部全体で何のために、どのように長寿命化計画が進

められているのかについて知っていただけるような情報紙にしていきたいと思っております。今後、各工種担当者の皆様には、各種調査、原稿執筆等へのご協力をお願いいたします。

各工種担当の紹介

土木施設長寿命化計画に取り組んでいる8工種の担当者を紹介します。静岡県の特徴として、施設横断的な取り組みが挙げられます。他工種の維持管理手法など積極的な情報の交換を行ない、長寿命化に関する情報の共有を図ることで、建設部全体の取組みとなるようお願いいたします。

舗装	道路保全室	平井一彰 係長	221-2752
橋梁	道路整備室	森下貴史 副主任	221-3016
トンネル	道路保全室	小林 剛 主任	221-3024
水門・陸閘	河川海岸整備室	山口 賢 副主任	221-3036
係留施設	港湾整備室	佐野昌彦 主任	221-3054
斜面施設(道路施設)	道路保全室	小林 剛 主任	221-3024
斜面施設(急傾斜地)	砂防室	早川光一 主任	221-3044
ダム	河川企画室	竹林康行 副主任	221-3202
管路	生活排水室	堀田雅裕 主査	221-3188
技術管理室	建設技術監理センター	保竹真幸	268-5004

平成21年度 長寿命化計画各工種担当者

全8工種のガイドラインが策定されました

昨年度、「管路」のガイドラインが策定されたことで、静岡県の長寿命化対象工種全てのガイドラインが出揃いました。今後は、各工種とも効果的で効率的な維持管理のために、中長期管理計画の策定に向け作業を進めていきます。(「舗装」については策定済み)

各工種の長寿命化計画

～取組み経緯と今後の予定～

平成 14 年度

各工種担当者による

ワーキングから始まった計画

これまでの経緯

そして将来へ向けて

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22～	
舗装	GL作成 中長期管理計画策定	点検・調査、DB構築							
		中長期管理計画の見直し（以降、時点修正）							
		試験施工、追跡調査							
橋梁	GL作成	初回詳細点検・DB構築			点検の継続、DB更新				
					橋守の試行・検証				
					長寿命化修繕計画策定(H20.3策定:約10年の短期計画)				
トンネル	GL作成	DB構築		DB改善		DB更新			
						維持管理補修計画策定(H22)			
						定期点検の実施・継続			
水門・陸閘	GL作成	DB構築		DB改善		DB更新			
						長寿命化計画策定			
						計画に基づく事業実施			
係留施設	GL作成	定期点検の実施・継続(3年サイクルの詳細点検)DB構築							
		定期点検の実施・見直し、現地調査							
		維持管理計画の検討							
斜面施設	GL作成	点検の実施・継続							
		DB構築・更新							
		中長期管理計画策定							
ダム	GL作成	点検の実施・継続							
		DB構築・更新							
		中長期管理計画策定							
管路	GL作成	点検の継続							
		DB再構築							
		維持マニュアル策定							
		中長期管理計画策定							

GL：ガイドライン DB：データベース

これまでの経緯

静岡県における「土木施設長寿命化計画」の取組みは、平成 14 年度から始まりました。担当者による勉強会を行い、国や他県の動向や情報を共有し、平成 15 年度からは土木施設長寿命化計画検討委員会^(※1)を立ち上げ、各工種のガイドライン作成の基本ルールとなる「土木施設長寿命化行動方針(案)^(※2)」が、策定されました。この行動方針は、資産運営(アセットマネジメント^(※3))の考え方を公共土木施設に活かし、限られた予算条件の下、予防保全を基本に施設特性に合わせた最適な維持管理を行なうための方向性を示し、今後、検討・設定が必要な事項について体系的に取りまとめています。

その後、平成 16 年度から「舗装」、「橋梁」のガイドライン策定にとりかかり、平成18年度までに「管路」を除く7工種でガイドラインの策定を終えました。

ガイドラインの策定後、各工種において点検による施設の現状把握を行っており、この結果をもとに、今後は各工種の「中長期管理計画」を策定し、土木施設の長寿命化に取り組んでいきます。

平成 20 年度の長寿命化計画検討委員会

平成 19 年度は、「管路」についての国の動向を見据えることとしたため、委員会は開催され

ませんでした。平成20年3月から4月にかけて国から下水道のストックマネジメントに関する手引書等が示されたことから、「管路」ガイドラインを策定するための土木施設長寿命化検討委員会を開催することとなりました。

第1回目の委員会は、前回の委員会から時間が経過していたことから、建設部内の組織改編に伴う設置要綱の改正と委員会組織の確認のため、平成21年1月21日に幹事会と合同で行ないました。ここで、様々な議論が行なわれ、2回の作業部会、1回の幹事会を経て平成21年3月18日に2回目の委員会が開催され、「下水道管路ガイドライン」を策定することができました。

全8工種のガイドラインが策定されました

将来へ向けて

今後は、各工種とも施設の大量更新時代へ向け、より効果的で効率

率的な維持・補修を行なう中長期管理計画の策定作業を進めます。既に「舗装」では、中長期管理計画が策定され、計画に基づく事業が実施されています。

新しい考え方であるアセットマネジメントは、日々、進化しています。「舗装」では、試験施工として新技術・新工法を採用し、その効果について追跡調査を行なっています。このような将来に向けた積極的な取組で、施設のライフサイクルコスト低減を図って行きたいと思っております。

キーワード解説

※1. 土木施設長寿命化計画検討委員会

静岡県における「土木施設長寿命化行動方針」、「各工種ガイドライン」の策定による土木施設の長寿命化の推進のため、平成 15 年度立ち上げられた委員会。幹事会、作業部会、委員会から成り立つ。委員長は、檜貝勇山梨大学教授（H21～同大名誉教授）。

※2. 土木施設長寿命化行動方針(案)

平成 15 年 3 月策定。静岡県における公共土木施設全体の長寿命化を実現するため、対象とする工種それぞれがガイドラインを策定する際の基本的考え方、基本ルールを構築した。

※3. アセットマネジメント

金融分野で用いられる言葉。「アセット＝資産」を運営するという意。静岡県では土木施設を資産と考えている。

《おしらせ》

建設部のHPに各工種のガイドラインがPDFファイルで公表されております。追加・訂正等がある場合は保竹まで。

静岡県建設部

アセットマネジメント関連ページ ⇒ <http://www.shizuoka.jp/kensetsu/ke-030/asset/index.html>

いっしょに、未来の地域づくり。
New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県建設部